

～はばたきコース～

<大賞 1団体>

■ 認定特定非営利活動法人 D×P（大阪）／助成額50万円

〔学校と連携した「授業」×「進路相談」×食堂を有効活用した「居場所」〕の事業開発

<p>団体概要</p>	<p>貧困、いじめ、発達・学習障がいをもっているなど、様々な事情を抱えた高校生（主に定時制、通信制高校に通う子ども達）を対象に、彼ら・彼女らが社会の中で孤立しないよう「人とつながる場」を作り、高校生が卒業後も働き生きていけるような「いきるシゴト」を高校生とともに作ることで、自分達の未来に希望がもてるような社会づくりを行っている。</p>
<p>応募プログラムの概要</p>	<p>これまで別々の学校で実施してきたプログラムを同じ学校の中で連携して行うプログラムである。具体的には以下の3事業。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校での居場所プログラム「いごこちかふえ」 定時制高校の中で食事提供を兼ねた居場所プログラム「いごこちかふえ」を週1回開催します。定期的に会える場を作ることでつながりをつくることを目指す。 2. 通信・定時制高校での独自授業プログラム「クレッシェンド」 高校生が人とつながる場を教室のなかにつくり、一人ひとりに寄り添いながら大人と高校生が関係性を築いていく力を身につけ、自分の将来に前向きになっていくことを目的とする。 3. 就職支援プログラムを実施「ライブエンジン」 高校生一人ひとりが卒業後に生きていける場所をつくることを目的としたプログラム。定時制高校と連携して高校生が気軽に進路相談できる場を学校の中につくる。また、仕事体験ツアーやインターンの紹介等、高卒生受け入れに理解のある企業と高校生をつなげる。別途オンラインでも進路相談を実施する。
<p>審査講評</p>	<p>当事業は、公立の定時制高校の子ども達が経済的困難、不登校や中退経験、発達障がいなど、多様な困難を抱えていることに着目し、一人ひとりの事情に沿った支援を行うことで、子どもたちが在学中から社会関係資本を作り、高校卒業後の進路支援や働き生きていくことができる力を身につけることを目的としている。</p> <p>審査委員会では、難易度が高い学校と連携した継続的な伴走型支援プログラムを行うことができるのは、当団体が地道な実績を重ねてきた結果であり、個々のプログラムは、今後のモデルケースとなる可能性を大いに秘めていることから、「実現性」や「効果と発展性」が高いと評価した。</p> <p>本アワードの助成が、子どもたちの社会的関係資本の醸成に非常に有効なプログラムとなり、本団体の目指す「子どもたちが自分の未来に希望が持てる社会」の実現につながることを大いに期待したい。</p>

<優秀賞 2団体>

■ 特定非営利活動法人 ここからKit（大阪）／助成額30万円

「届ける支援」で子育て家庭の孤立化防止事業
～孤育て家庭と地域をつなぐ訪問型子育て支援～

<p>団体概要</p>	<p>2005年より子育て支援サークルとして活動を行っており、徐々に活動の幅を拡大していったが、2014年にその発展形として、公共制度の枠にとらわれない「子育て中の母親の駆け込み寺」になることを目的に、NPOとしての活動を開始した。</p> <p>主な活動は、おとなと子どもの居場所づくりの場を常設で開設している他、小中学校への福祉の出前授業、コミュニティ食堂「ここから」など、子どもを育む大人たちが笑顔になれる活動を実施している。</p>
<p>応募プログラムの概要</p>	<p>近年、地域ぐるみで子育てを支え合えるつながりも薄くなり、親が一人で子育てをすることが多くなってきている。行政も様々なサポートを行っているものの、どうしてもそこからこぼれ落ち、支援の届かない人たちがいる。</p> <p>当事業は、未就学児が一人でもいる家庭に、研修を受けた地域の子育て経験者が訪問し、対象家庭に寄り添い、悩みを受け止めたり育児や外出支援を行う等の定期的な「家庭訪問型子育て支援ボランティア」という伴走型の支援プログラムである。</p> <p>被支援者はプライバシーが守られているため、ボランティアと相談しやすい関係が構築できることから、個別の課題にきめ細かい支援が提供できる。また、支援者の寄り添いだけでは解決できない課題についても連携機関・団体とのネットワークにつなげることが可能となる等、問題が大きくなる前に誰でも気軽に手助けを得られる社会の実現に寄与することができる。</p>
<p>審査講評</p>	<p>当事業は、ボランティアによる定期的な家庭訪問により、公的な支援が届きにくい子育てで広場などに出かけづらい家庭、専門機関の支援を受けるほど問題が顕在化していない家庭を支援することで、保護者が心身の健康を保ち、児童虐待等を未然に防止することを目的とした事業である。</p> <p>実施にあたっては、ボランティアにのべ40時間の研修を行い、専門的な知識の習得を促して事業の実効性を高めたり、保健師やソーシャルワーカー等の専門家による委員会を開催して、事業の検証とレベルアップを図っている。また、実施にあたっては、団体単独ではなく行政や他の支援団体ともネットワークを構築し、地域全体で課題解決にあたっており、審査委員会では、支援の質の向上に努めたり、幅広い連携を行っていること等、「創意工夫」「社会性」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成が今まで手の届かなかった家庭に支援を届けるとともに、地域でより多くの支援の担い手が育ち、新しい地域の助け合いの輪が広がることを大いに期待したい。</p>

■ 特定非営利活動法人 ホザナ・ハウス（兵庫）／助成額 30 万円

少女の居場所づくり

<p>団体概要</p>	<p>少年院で一定期間矯正教育を受けた子どもや生活力をもたないまま児童養護施設から自立を迫られる子どもたちは、公的支援制度の空白部分に落ちてしまう。そのため、そういった子どもたちに居場所と食事を提供し、愛をもって心の傷をいやし、自立に向けた支援を行うべく団体を立ち上げた。</p> <p>支援活動をとおして、子どもの権利条約第 20 条「家庭環境にとどまることができない子どもは、特別の保護と援助を受ける権利がある。」という子どもたちに当然与えられるべき権利を守り、社会的弱者である子どもたちを包摂する共生社会の実現を法人の使命としている。</p>
<p>応募プログラムの概要</p>	<p>幼少期の劣悪な環境や発達の遅れなどが原因で虐待を受けたり、施設で養育されたために愛情不足で育った子どもたちは「生きづらさ」を抱えることが多く、そういった「生きづらさ」を理解されることが無いために、居場所を失うことがある。特に居場所を失った少女は、悪意をもつ大人と関わり、売春、犯罪、事件等に巻き込まれるリスクが高い。</p> <p>当事業では「生きづらさ」を抱え居場所を失った少女たちに無償で居場所（シェルター）と食事を提供し、継続的に彼女たちの「生きづらさ」に寄り添うとともに、行政などへのアドボカシー活動を行っていく。専門的な課題については、弁護士会、各子ども家庭センター、NPO 中間支援センター、シェルターを運営する他団体とともに対応していく。</p>
<p>審査講評</p>	<p>子どものシェルター事業は自立援助ホームなどの制度利用ができるものの、多くのシェルターが資金難・人材難で閉鎖が相次いでいる。しかし、このような子どものシェルターは様々な支援を受けることができなかった子どもたちにとっての最後の砦となっており、社会的役割は大きい。</p> <p>当事業は「生きづらさ」を抱える子どもたちの中でも、犯罪被害や事件に巻き込まれ易い少女に特化したシェルター事業である。審査委員会では、シェルター運営の困難さがありつつも、これまでの団体が実践してきた子ども支援の経験や様々な団体とのネットワークを生かした企画であり、「先進性」、「実現性」、「社会性」を高く評価した。</p> <p>本アワードの助成によって一人でも多くの少女が保護され、こういった社会課題が多くの人に認知されることによって、「生きづらさ」を抱える子どもたちの支援が広がることに期待したい。</p>